中学３年生を対象に実施　　越前市南越中学校

令和8年全国学力・学習状況調査（2026.4.23）の結果からみた

国語・数学・英語の学力と学習や生活の状況

Ⅰ　国語・数学・英語の学力　◎は良いところ　▲は伸ばしたいところ　☆学校としての取組

❶国語について

◎「れる」「られる」という単語の意味や識別について適切なものを選択する問題では、助動詞の意味や単語の類別・活用について理解できている生徒が多く、正答率は全国平均・県平均を上回りました。

◎随筆文の展開の意図に関する説明として適切なものを選択する問題では、段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫していることを理解できている生徒が多く、正答率は全国平均・県平均を上回りました。

◎説明文の文章全体を三つに分けて整理して適切なものを選択する問題では、文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えられている生徒が多く、正答率は全国平均・県平均を上回りました。

▲タブレット端末を用いた話し合い場面で、アンケート結果の画面、話し合いの一部、話し合いを受けて整理した画面という複数の資料を見ながら、生徒の発言は何を説明しているか適切なものを選択する問題に、課題が見られました。複数の資料を使った、情報と情報の関係を理解する力が不十分であると考えられます。

▲説明文を読み、会話の表情を表わす擬音語・擬態語に関する特徴をまとめる問題に、課題が見られました。文章の中から必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する力が不十分であると考えられます。

☆複数の文章や図・グラフなどの資料を比較して読み取り、違いを考察する活動を充実させます。また、タブレット端末上にある授業支援アプリを活用しながら話し合いを行い、意見を述べたり共有したりしながら情報のつながりを意識できる活動を取り入れます。

☆説明的な文章で、筆者の主張に関する部分について、内容を適切に解釈したり自分で要約して書いたりする活動を取り入れます。

❷　数学について

◎「関数」の領域で力がついています。「反比例の表において、x の値が-3 のときの y の値を求める」問題の無回答率は0%で、反比例の性質を理解している生徒が多く、正答率は、全国平均・県平均を大きく上回りました。

◎「データの活用」の領域の「学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ」問題については、代表値と箱ひげ図を対応できている生徒が多く、正答率が全国平均・県平均を上回りました。

▲「数と式」の領域の「予想がいつでも成り立つことを説明するための方針を完成するために、当てはまるものを選ぶ」問題では、選んだ 2 数の和の 111 倍を説明するところ、111×（整数）と誤答している生徒が多く、予想にあった方針に合わせて式変形することに課題が見られました。

▲「関数」の領域の「動画の時間とデータ量のグラフにおいてデータ量が1000MB になるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する」問題において、正答率は、全国平均を上回りましたが、無解答率が高く、また記述が不十分な解答も多く見られました。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られました。

☆数学的な用語を確実に理解、定着できるように、授業中の発表や対話のときに、数学的な表現を使って説明・記述する場面を増やします。また、問題が解けただけで終わるのではなく、その解く過程を数学的な用語を正しく使って説明しあう時間や振り返りの時間を充実させます。

☆説明や記述に対する苦手意識を軽減するために、生徒同士で教え合ったり、タブレット端末上に解き方を支援するワークシートを配付したりします。

❸ 英語について

◎「聞くこと」において、日常的な話題や社会的な問題について、目的に応じて、必要な情報や要点を聞き取ることができるかどうかをみる問題では、全国平均・県平均を上回りました。

◎「読むこと」において、日常的な話題について短い物語を読み、登場人物の気持ちの変化を捉える問題では、全国平均・県平均を上回りました。

◎「書くこと」において、学校で普段行うことについて一つ選び、それについての説明を書く問題では、全国平均・県平均を上回りました。

▲「聞くこと」において、日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる問題で、課題が見られました。

▲「読むこと」において、日常的な話題について、自分の置かれている状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題で、課題が見られました。

▲「書くこと」において全体的に課題が多く見られました。特に日常的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことについて課題が見られました。

▲「話すこと」において、質問に十分な内容で答えたり、文法的に正しく答えたりすることに課題が見られました。

☆まとまりのある文章を聞いたり読んだりする中で、概要を捉えることに課題が見られるため、話者の言いたいことを一言でまとめたり文章を要約したりする活動を、今まで以上に取り入れていきます。

☆授業での課題に対して、目的・場面・状況を丁寧に確認することで、生徒の判断力を高め、適切な思考のもとに相手に伝わる正しい表現で伝えることができるように一つ一つの活動に取り組ませます。

II 学習や生活の状況について

◆「生徒質問紙」(アンケート)の結果からの全体的な傾向

① ◎よい傾向(県平均より肯定的な回答の割合が多い事項(今後も続けてほしいこと))

⑴ 学校に行くのは楽しいと思っている生徒、普段の生活の中で幸せな気持ちになる生徒、自分によいところがあると思っている生徒の割合が大変高いです。

⑵ 人が困っているときに進んで助けている生徒、人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合が高いです。

⑶ 自分でICT機器(PC, タブレット)を使って、調べたり、情報を整理したりして、プレゼンテーション作成や文章作成ができると思っている生徒の割合が高いです。

⑷ 学級活動や道徳を含めた授業での話し合い活動を生かして、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付き、努力すべきことを決めて取り組んだり、よりよくするための解決方法を決めたりしている生徒の割合が高いです。

② ▲心配な傾向(県平均より否定的な回答の割合が多く改善すべき事項(今後の課題となること))

⑴ 学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上勉強(塾等を含む)をしている生徒が少ないです。(半数以上の生徒が、家庭での学習時間が 1 時間未満でした。)

⑵ 土曜日や日曜日などに、1 日当たり 1 時間以上勉強(塾等含む)をしている生徒が少ないです。

⑶ 将来、積極的に英語を使う生活をしたり、職業についたりしたいと思っている生徒の割合が低い傾向にあります。

III 今後の対策など

☆学校全体で次のことに取り組んでいきます。

⑴今後も学校教育全体を通して、自主的に目標を立て、活動に取り組む機会を持たせ、さらに教師からのフィードバックをすることで、生徒らの自己肯定感を高める取組を推進していきます。

⑵単元を通した課題を設定し、生徒同士の対話のなかで学びを深められるように、主体的で協働的な授業づくりに努め、生徒の学力向上につなげていきます。

⑶教科の特性とねらいに応じて ICT を有効活用し、生徒自身の生活と結びついた課題設定を行い、生徒が学びの自己調整ができるように支援し、学ぶ意欲の向上に努めます。

⑷タブレットを活用し、家庭で自分に適した自主的な学習を進めることができる取組を推進していきます。

⑸生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、居場所づくりや絆を深める集団づくりに努め、全職員で生徒が何でも相談できる環境づくりを推進します。

⑹家庭学習の習慣化のため、時間の使い方や学習のやり方を指導し、支援していきます。

〇お願い　ご家庭でも学習習慣等が身につくように、温かい励ましや見守りをお願いします。